福生市社会教育委員の会議
平成 29・30 年度　研究報告書

社会教育委員から見た

コミュニティ・スクールの現況と今後

平成 31 年 3 月

福生市社会教育委員の会議

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第一章 福生市の地域の教育力の向上に向けて
１　社会情勢の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
２　社会教育・地域を取り巻く状況について・・・・・・・・・・・・・・・・2
３　子どもの育ちと大人の学びをつなげる環境の整備について・・・・・・3
４　福生市におけるコミュニティ・スクールについて・・・・・・・・・・・3
５　社会教育委員が考えるコミュニティ・スクールの可能性について・・・4

第二章 コミュニティ・スクールに期待すること ・・・・・・・・・・・・・・6

第三章 コミュニティ・スクールの現況について ・・・・・・・・・・・・・・7

第四章 これからの福生市のコミュニティ・スクールについて
１　今後の福生市のコミュニティ・スクールの向かう方向について・・・・9
（１）短期的な視点
（２）中・長期的な視点
２　社会教育委員としてできること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（１）地域人材の情報提供
（２）継続した情報発信

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

本報告書作成に係る調査・研究の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

平成 29・30 年度福生市社会教育委員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・15

はじめに

近年、少子高齢化や核家族化等の社会環境の変化により、家庭や地域の教育力の低下が指摘されています。こうした状況を踏まえ、社会教育委員の会議でも、平成 23・24 年度に「地域の教育力の向上について」をテーマに研究を行い、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制整備の必要性を報告書にまとめました。

国は、こうした社会情勢を背景に、子どもの教育に学校・家庭・地域が責任を持ち、当事者意識をもって学校経営に参画する仕組みとして、コミュニティ・スクールを立ち上げました。

平成 27 年３月に教育再生実行会議でまとめられた「『学び続ける』社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について（第六次提言）」では、「教育がエンジンとなって地方創生を」が掲げられ、

・*「教育」の力で地域を動かす*

・*小中学校等で、地域を担う子供を育て、生きがい、誇りを育む*　　（抜粋）

という理念がうたわれ、コミュニティ・スクール拡大のために必要な措置を講じることが求められています。

福生市では、「ふっさっ子未来会議報告書」において、未来提言５として「福生市を愛し、地域の人々とつながり、地域の伝統を守り、誇りと夢を育む」が掲げられ、「福生市立学校コミュニティ・スクール制度導入検討委員会」での検討を経て、市内全校へのコミュニティ・スクール導入が進められています。

コミュニティ・スクールは、「学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制」ではないでしょうか。社会教育委員の会議では、コミュニティ・スクールが、子どもの成長を軸に、社会教育や地域を活性化する有効な手段としても機能するために、どのような関わり方ができるのかという視点で調査・研究を行ってきました。

本報告書を、コミュニティ・スクールを支える方に限らず、まだ制度を御存じない方も含め多くの方に御覧いただき、子どもの育ちを支える大人が一人でも増えることにつながれば幸いです。

福生市社会教育委員の会議

議長　野　村　　亮

第一章　　福生市の地域の教育力の向上に向けて

１　社会情勢の変化

少子化、核家族化、都市化等の進行により、価値観やライフスタイルが多様化するなど、子どもを取り巻く生活環境は大きく変化しています。

異年齢の子どもや家族以外の大人と触れ合う機会が減少し、育ちの過程で、地域住民同士で助け合う「共助」の経験や、多くの人と直に触れ合い、多様な経験を積み重ねる機会が十分でない子どもが増えています。

一方、学校は、子ども達に「確かな学力」「豊かな人間性」及び「健康・体力」を基礎とする「生きる力」をはぐくむ様々な指導・活動に加えて、不登校対策や特別な支援を要する児童・生徒への対応等、複雑化・困難化課題に加え、本来なら、家庭や地域が担うべきことへの対応までが求められるようになり、教員の負担は増大し、その勤務環境等が社会問題化しています。

また、日本は、2010 年には 65 歳以上の人口が 21％を超え、「超高齢社会」に突入しました。今後も高齢化率は高くなると予測されており、2025 年には約 30％、2060 年には約 40％に達すると見られています。

さらに、厚生労働省が公開した「平成 29 年簡易生命表」によると、日本人の平均寿命が過去最高を更新し、男性は 81.09 歳、女性は 87.26 歳となりました。今後も平均寿命の伸びが予測され、2007 年生まれの子どもの半数が 107 歳以上生きると言われており、いわゆる「人生 100 年時代」が迫ってきています。

そのため、退職後の長い期間をどのように地域で生きがいをもって過ごすかが大きな課題となっています。

２　社会教育・地域を取り巻く状況について

社会情勢の変化は、社会教育や地域を取り巻く状況にも大きく影響しています。

社会教育では、地縁的な協働の必要性が減少したことや、ライフスタイルの多様化等により、伝統・文化に触れる機会が減少し、携わる人の高齢化や後継者不足が課題となっています。

また、地域においては、東日本大震災をはじめ、大規模災害が発生するたびに地域コミュニティの必要性が再認識されてきました。災害時に、地域コミュニティによる救助作業等により、多くの方の命が助けられたことは新聞報道等でも

広く知られています。

しかしながら、福生市では町会・自治会の加入率が、平成 26 年 10 月には 40%を切り、平成 29 年 10 月には 37.83%となり、下降の一途をたどっているのが現状で、社会教育同様に担い手不足や活動の維持等が課題となっています。

３　子どもの育ちと大人の学びをつなげる環境の整備について

こうした社会情勢の変化により、子どもの成長を軸に、学校を核として、地域の人材を活用し、「社会総がかり」で子どもの育成に取り組む環境の整備が求められるようになりました。

地域全体で子どもの育ちを支える環境を整えることで、多様な大人と接し、様々な経験をした子どもが、いずれは学校を支える地域の大人として戻ってくるという、学校を核とした人材の循環が生まれることが期待できます。

この人材の循環は、伝統・文化の後継者不足、町会・自治会の加入率の低下や担い手不足等といった社会教育や地域の抱える課題の解決の糸口ともなりうるものです。

また、子どもの貪欲な興味・関心に向き合うためには、教える側の大人が常に学び続ける必要があります。生涯を通して学ぶ姿勢を持つことは、「人生 100 年時代」を有意義に生きる礎となります。

コミュニティ・スクールは、こうした「子どもの育ちと大人の学びをつなげる」画期的な制度と言えるのではないでしょうか。

４　福生市におけるコミュニティ・スクールについて

福生市教育委員会では、平成 25 年７月に、魅力ある教育施策を検討することを目的として設置された「ふっさっ子未来会議」で、「６つの未来提言」をまとめました。その中で、未来提言５として「福生市を愛し、地域の人々とつながり、地域の伝統を守り、誇りと夢を育む」がうたわれています。その提言の具現化に向けた取組を推進する作業部会として、平成 27 年１月「福生市立学校コミュニティ・スクール制度導入検討委員会」が設置されました。

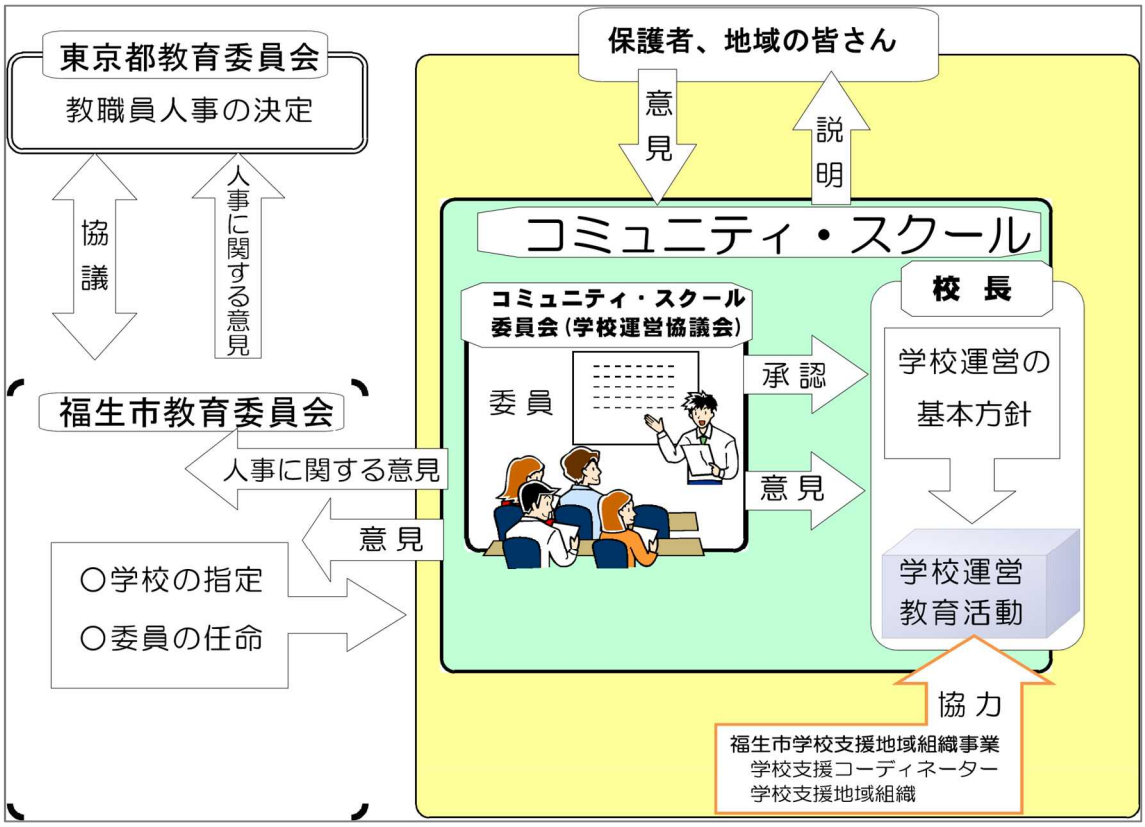
検討委員会では、保護者、地域、学校及び教育委員会が一体となり、よりよい学校を作り上げていくことを目指し、福生市立学校へのコミュニティ・スクールの導入のあり方について調査、検討及び協議が重ねられました。

平成 28 年度には、福生第四小学校をパイロット校として指定し、その後平成 32 年度までに順次全校へ導入することを決定しました。平成 30 年度までに市内の半数の５校がコミュニティ・スクールに指定されています。

◆福生市のコミュニティ・スクールの指定のスケジュール

年度	コミュニティ・スクール指定校
平成 28 年度	福生第四小学校
平成 29 年度	福生第六小学校
平成 30 年度	福生第一小学校、福生第二小学校、福生第五小学校
平成 31 年度	福生第三小学校、福生第七小学校、福生第二中学校
平成 32 年度	福生第一中学校、福生第三中学校

◆福生市のコミュニティ・スクールのイメージ図



「福生市立学校のコミュニティ・スクール構想について」より抜粋

５　社会教育委員が考えるコミュニティ・スクールの可能性について

社会教育委員の会議では、コミュニティ・スクールが「子どもの育ちと大人の学びをつなげる」画期的な制度であること、子どもの成長を中心に学校と地域が協力・協働する過程の中で、地域の中にもつながりや活力が生まれ、地域再生のきっかけとなる可能性がある点に着目しました。

そこで、社会教育委員としてコミュニティ・スクールにどのように関わっていくことができるのかという視点で、研究テーマとして取り組んでいくことにしました。

第二章　　コミュニティ・スクールに期待すること

福生市では、コミュニティ・スクールの目標を学校における教育目標を達成することとし、地域には、校長の学校経営方針に基づく協力を求めています。そして、学校と地域の協力・協働は、すべて子どもの成長のためであると位置づけています。

しかしながら、「社会教育委員が考えるコミュニティ・スクールの可能性」を十分に引き出すためにも、制度の成熟により期待される効果を、「子どもの育ちや学校」側からだけでなく、「社会教育や地域」の側からも検討し、次のとおり整理しました。

１　子どもの育ちや学校にとって期待される効果

1	子どもがたくさんの人とのふれあいから、その子らしく成長していくことができる。
2	子どもが地域の活動に参加することで色々な人と交流し、コミュニケーション能力・自己肯定感・思いやりの心等育むことができる。
3	地域の特色を活かした学校となることができる。
4	教員が授業改善にエネルギーを向けられるようになる。
5	本来家庭で負うべき子どもの問題は専門家や地域に任せ、教員は教室の中で教科指導等に専念できるようになる。
6	学校の働き方改革の一助となる。

２　社会教育・地域にとって期待される効果

1	社会教育の一つの装置として機能する。
2	子どもに理解してほしいことを地域の人から伝えることができる場となる。
3	地域の担い手となる子どもの育成ができる。
4	保護者も地域の多様な方々との交流によりつながりを実感できる。
5	子どもの成長を軸に地域と学校が連携・協働し、「学校を拠点とした持続可能な地域づくり」が実現できる。
6	地域と学校の双方が次代を担う子どもをどのように育むかという目標に向かって共通認識を持つことができる。
7	社会教育が充実し、地域社会によい影響を与える。

第三章　　コミュニティ・スクールの現況について

福生市では既に小学校５校のコミュニティ・スクールが指定され、学校・家庭・地域の相互協力が強化されています。

これからも順次コミュニティ・スクールが指定されていく現在、運用がスタートしたことで見えてきた点も多々あります

コミュニティ・スクールに関わる方々、学校支援コーディネーター等の関係者の声をまとめてみました。

１　コミュニティ・スクールに思うこと

1	子どもが親以外の人と斜めの関係の中で接し、学ぶことで社会性を育てることができている。
2	学校支援に関わる保護者、地域住民の人数が確実に増えている。
3	地域の方と教職員、保護者が接する機会が増えたことにより、問題点を掘り下げることができるようになった。
4	これまでより学校運営の様子が細かく、具体的に伝わってきている。
5	年配の方達が、孫が通う学校ではないが、“地域の学校の子どもたち”という気持ちで暖かく見守ってくれている。
6	制度が十分に地域の方に理解されていない。
7	学校や地域に合った運用を模索中である。
8	校長や地域の人が変わった時の活動の維持に不安を感じている。
9	担い手が不足している（小学校と中学校は地域が重なるため、担い手が重複してしまう）。
10	コミュニティ・スクールの理解を深めるための継続的な情報提供が不十分である。
11	運営についての具体的なイメージを持つことができず、目指すべき目標が共有できていない。
12	既存組織のＰＴＡや学校支援地域組織等がコミュニティ・スクールにどのように関わり、どのような役割を果たすか、はっきりしていない。

２　今後に向けて思うこと

1	学校間の情報共有や関係者の意見交換を行える場を定期的に設け、課題解決につなげる。

2	コミュニティ・スクールにおける既存組織（ＰＴＡや学校支援地域組織等）のあり方や役割を明確にし、関係者が十分に理解を深めることで、有効な活動が行えるようにする。
3	各学校毎にコミュニティ・スクール活動報告資料を作成し、データベース化して関係者への情報提供を積極的に行っていける体制をつくる。
4	地域資源である人材を掘り起こしてデータベース化し、学校の枠を超えて共有することで、活動をより円滑にする。
5	学校や地域でコミュニティ・スクールに関わる方々の理解をより深めるため、定期的な研修会を開催する。

コミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域の協働による教育の充実を図り、学校の特色や地域の土壌により「自分たちの学校」を作り上げられる新しい学校の仕組みです。

福生市教育委員会の教育目標である「教育は、学校・家庭・地域の三者が互いに連携・協力し、責任を果たしてこそ、その成果が上がるものとの認識に立って、市民が主体的に参加する地域全体での教育の向上に取り組む社会を目指す。」の達成のためにも、その仕組みが十分に機能するよう、学校・家庭・地域及び行政が協働し、福生市の特色を活かしたコミュニティ・スクール制度の維持と発展が期待されます。

第四章　　これからの福生市のコミュニティ・スクールについて

１　今後の福生市のコミュニティ・スクールの向かう方向について

前章では、社会教育委員の立場からコミュニティ・スクールの現況を確認しました。まだまだ、走り出したばかりの制度ですので、これから徐々に浸透し、成熟していくことを期待しています。

コミュニティ・スクールは、子どもの知・徳・体のバランスのよい育成に向け、学校・家庭・地域の三者が連携し、協力・協働していくことによってそれぞれの益となる画期的な制度です。だからこそ、福生市は全校への導入に踏み切ったものと理解しています。

現に、これからコミュニティ・スクールの指定をされる予定の学校の関係者からは、期待の声が多く挙げられています。

コミュニティ・スクールを導入することをゴールとするのではなく、子どものよりよい成長に向けて、そして地域活性化の核としても有効に機能するよう、引き続き支援を続けていかなければなりません。

制度が地域に定着し、円滑な運用ができるよう短期的、中・長期的な視点でコミュニティ・スクールの今後について協議しました。

（１）短期的な視点

短期的には、子どもの育ちに多くの大人が関わり、多様な経験をし、成長を支える、「子どもと地域が出会う」ことに主眼を置くことに注力できるとよいと考えました。

福生市におけるコミュニティ・スクールの目標である、学校の教育目標達成のため支援を行っていくことで、コミュニティ・スクールの基礎となる形を学校と地域に根付かせることを目指していけるといいのではないでしょうか。

（２）中・長期的な視点

短期的な視点に掲げた、子どもの育ちを地域が支えることの積み重ねにより、子どもを将来の「地域の資源」につなげることができます。

それは学校を核とした持続可能な地域づくりになります。

10 年後の学校と地域の姿を互いに共有し、コミュニティ・スクールを運営していくことが望まれます。

２　社会教育委員としてできること

社会教育委員の会議では、コミュニティ・スクールについて調査・研究を行う中で、社会教育や地域に主体的に関わる者として、どのようなことができるのかを協議しました。

（１）地域人材の情報提供

これまでの研究の中で、人材の確保に対する不安が挙げられていました。社会教育のさまざまな分野に長けた方の情報を学校へ提供することができます。

（２）継続した情報発信

コミュニティ・スクールの現在の認知度について関係者の御意見を伺うと、まだまだだと言わざるを得ない状況でした。

コミュニティ・スクールは、子どもの育ちを支えるだけでなく、社会教育や地域の課題解決につながる可能性を秘めている画期的な制度です。そのことを継続して発信し続けることで、より多くの大人が学校に協力する気運を高めていくことができると考えました。

おわりに

社会教育委員は、学校運営協議会委員、学校支援コーディネーター、ＰＴＡ役員等さまざまな立場でコミュニティ・スクールに関わっていますので、助言やサポートのほか、積極的に現場に出て、子どもの育ちを支えることができます。

それだけでなく、子どもの育ちと大人の学びをつなげるコミュニティ・スクールの成熟に向けて、学校と社会教育・地域をつなぐパイプ役となり協力・支援をするとともに、今後の発展に期待したいと思います。

本報告書作成に係る調査・研究の経緯

開催日	主な検討内容
平成 29 年 ４月 26（水）	○研究テーマについて協議
平成 29 年 ５月 31（水）	○研究テーマについて協議
平成 29 年 ７月４（水）	○研究テーマについて協議
平成 29 年 ８月 16（水）	○研究テーマについて協議
平成 29 年 ９月 27（水）	○研究テーマの決定 ・研究テーマを決定
平成 29 年 10 月 26（木）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・コミュニティ・スクールに関する資料により協議
平成 29 年 11 月 27（月）	○コミュニティ・スクールの事例報告 「福生第四小学校コミュニティ・スクール活動」 福生第四小学校コミュニティ・スクール運営委員会委員長 山﨑　源太氏
平成 30 年 １月 24（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・各委員から見たコミュニティ・スクールについて
平成 30 年 ２月 21（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・福生市のコミュニティ・スクールの現状等について
平成 30 年 ３月 28（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・社会教育とコミュニティ・スクールの関わりについて
平成 30 年 ５月 23（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・これまでの議論における意見の整理
平成 30 年 ６月 27（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・各委員から見たコミュニティ・スクールについて
平成 30 年 ７月 25（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・各委員から見たコミュニティ・スクールについて
平成 30 年 ８月 22（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・各委員から見たコミュニティ・スクールについて

平成 30 年 ９月 26（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・報告書作成について ・各委員から見たコミュニティ・スクールとの関わりについて
平成 30 年 10 月 24（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・これまでの議論における意見の整理
平成 30 年 11 月 21（水）	○コーディネーターミーティングに出席し、学校支援コーディネーターと意見交換 ・コミュニティ・スクールについての理解度について ・コミュニティ・スクールを導入してよかった点について（指定校） ・コミュニティ・スクールに期待できる点について（指定予定校）
平成 30 年 11 月 28（水）	○コミュニティ・スクールについて調査・研究 ・コーディネーターミーティングにおける意見交換の内容について報告・協議
平成 30 年 12 月 26（水）	○報告書作成 ○発表内容の検討
平成 31 年 １月 23（水）	○報告書作成 ○発表内容の検討
平成 31 年 ２月 27（水）	○報告書作成 ○発表内容の検討

平成 29・30 年度　福生市社会教育委員名簿

役　職	氏　名	選　出
議　長	野村　亮	学識経験者
副議長	西山　多惠子	福生市立小・中学校長会
委　員	榎本　直美	学識経験者
委　員	奥村　雄二	特定非営利活動法人福生市体育協会
委　員	北島　浩子	福生市文化協会推薦
委　員	髙橋　聖	福生市ボーイスカウト・ガールスカウト連合育成会
委　員	前　里惠	学識経験者
委　員	萬沢　明	学識経験者
委　員	宮﨑　寿美代	社会福祉法人福生市社会福祉協議会
委　員	山田　麗香	福生市公立小中学校ＰＴＡ連合会
副議長	中村　瑞穂	社会福祉法人福生市社会福祉協議会 （平成 30 年３月 31 日退任）

事務局職員

所　属	氏　名
生涯学習推進課長	菱山　栄三郎
生涯学習推進課　生涯学習推進係長	西間木　裕子
生涯学習推進課　生涯学習推進係主事	海津　侑美